

高峰登山報告書

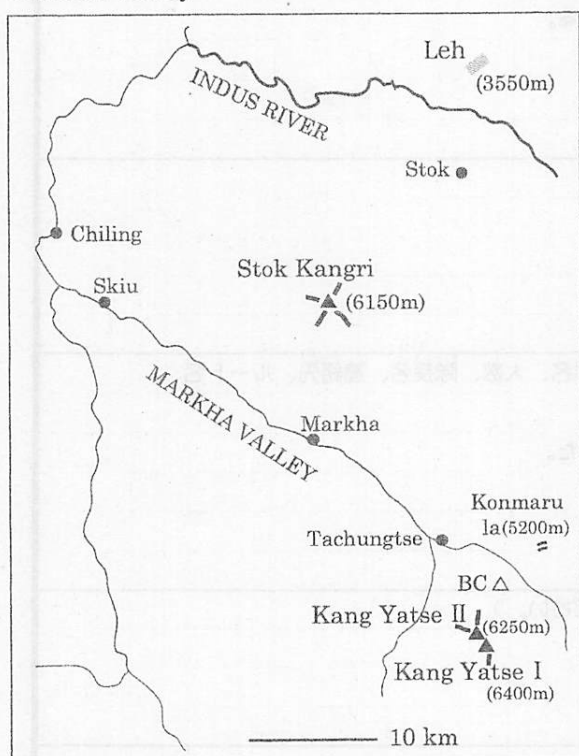
国名	インド	山名	Kang Yatse II, Nun	標高	6250m, 7135m	地域名	ラダック、ザンスカール
隊名	2023 HIMALAYAN FREE DAYS Mt. Nun Expedition			派遣母体	旭川山岳会		
今回の登山隊の区分について下記の中から該当するものを○で囲んでください。: ☒ 単独登山 ☐ (個人山行)							
組織内公募登山		☒ 一般公募登山		国内商業登山		外国商業登山	
連絡先	氏名: 志水 顕 FAX: 住所: :						
登山内容		雪稜および雪壁登攀					
*		登山期間 (本隊の日本出国から帰国まで) 2023 年 7 月 29 日 ~ 8 月 28 日					
*		ルート名: Kang Yatse 2 (ノーマルルート), Nun (新ルート) (各隊によって名称が異なりますので低い順から訂正してください。)					
*キャンプ配置と設営日 (隊員が初めて宿泊した日を設営日としてください。) 設営場所 (※日の後に**氷河右岸とか○△尾根上など、平易に記して下さい。)		Markha Valley BC (5020m)		8 月 6 日			
		Kang Yatse 6250m 登頂		8 月 15 日			
		Nun BC (4400m)		8 月 13 日			
		Summit Camp (6270m)		8 月 19 日			
		6440mにて登頂断念		8 月 20 日			
*登山の成否: 成功 ☒ 断念 ☐ 最高到達点 6440m m地点 8 月 20 日 午前1時30分頃到達							
*酸素 ☒ 持参しない ☐ 持参した ☐ 医療用のみ ☐ 睡眠用 ☐ 行動用 使用実績: ☐ 睡眠時のみから使用 ☐ 行動中 ☐ から使用 ☐ 医療用使用							
*固定ロープ: ☒ 持参しない ☐ 設置済み ☐ 持参した (m持参した。) ☐ 使用実績[]							
隊の構成 (都市滞在だけの方は除いてください。氏名のふりがなはローマ字でお願いします。)							
氏名		フリガナ		性別	生年月日	歳	登頂日
1	志水 顕	Shimizu Akira	☒ 男 ☐ 女			65	月
2			☐ 男 ☐ 女	19 年 月 日			月 日
3			☐ 男 ☐ 女	19 年 月 日			月 日
4			☐ 男 ☐ 女	19 年 月 日			月 日
5			☐ 男 ☐ 女	19 年 月 日			月 日
6			☐ 男 ☐ 女	19 年 月 日			月 日
7			☐ 男 ☐ 女	19 年 月 日			月 日
8			☐ 男 ☐ 女	19 年 月 日			月 日
高所ポーター (登攀活動に従事した者のみ記入してください。) ガイド=G、サード=S							
氏名		年齢	登頂日	氏名		年齢	登頂日
1	Xarzen Sherpa (Nepal)	32	月 日	5			月 日
2	Sumba Sherpa (Nepal)	22	月 日	6			月 日
3			月 日	7			月 日
4			月 日	8			月 日
連絡官 (歳)				通訳 (歳)			
☒ 要員 ☐ コック Raaz (Nepal)		キッチン		メール			
報告書	書名	判形	判	頁	年	月	日発行
その他発表した記録							

登山概況

今回は約1か月で2つの山に登るべく、SHIKHAR TRAVELSに6000USD以上の大金を支払ってインド入りするが、空港には誰も迎えにきておらず、ちょっとアセる。インド式旅行の始まり。IMFのブリーフィングなどを済ませて8/1には10年ぶりとなるチベット圏のLehへ。勝手知ったるStok trailで1人で順応した後、前半はMarkha Valleyに入り、順応を兼ねてKang Yatse II (6250m)を目指す。たくさんのトレkkerや登山者に出会い、渡渉を繰り返しながら天上の楽園、お花満開のBC(5020m)へ。1日restの後、夜の11:00というクレイジーな時間にサミットプッシュを開始し、明るくなる頃に快調に存外立派な頂に至る。9座めの6000m峰である。後半は、イスラム圏のKargilを経てザンスカールを遡り、Nun(7135m)を目指す。その大きく立派な姿に圧倒される。今年は上部のクレバスの状態が悪く、私でも行けそうだ？と思われた右スカイラインのリッジが使えず、ネパールの優秀な若者Sumba Sherpaが拓いた新ルートへ。C1(5200m)を経てほぼ水平にC2へ雪原をトラバースするまでは何とかなったが、Summit Camp(6270m)への登りで消耗する。着いた日の深夜に出発する予定だったがもう1泊restすることにした。これが結果的には高所衰退を招き、サミットプッシュ当日はシェルパフードのツァンパの食べ過ぎで腹をこわしたり、昨年痛めた膝が痛くなったりして、先日インド隊が落石に遭ったロックバンドの下6440mで力尽きて撤退となった。しかし、意外に幸せな気分、Happy people is always happyだった。Summit Campで休憩・仮眠ののち、食糧も無いので、C2、C1を経てBCへ一気に下るが、固定ロープをユマーリングした50ピッチぐらいをすべてラッセルしなくてはならず、疲れ果て、暗くなる頃クランポンポイントになんとか無事辿り着いた。ずっと一緒に付き添ってくれたXarzung Sherpaに感謝！

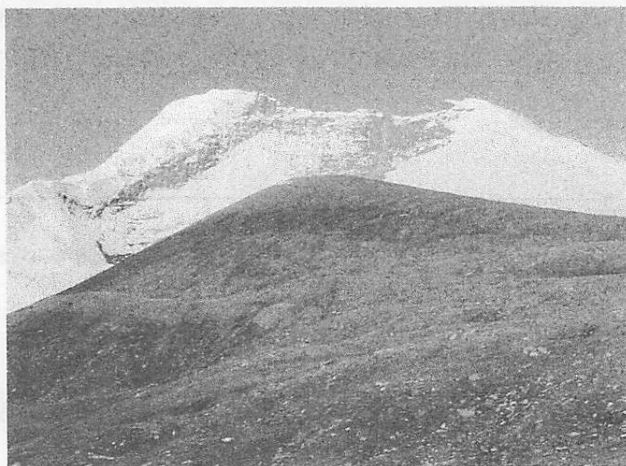
概念図

Markha Valley

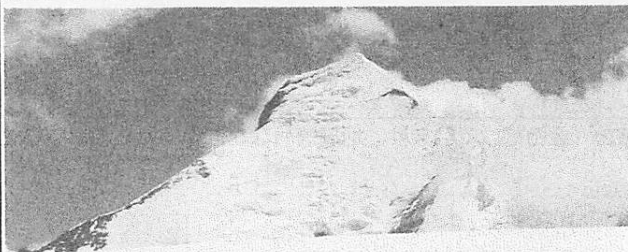


Nunは正確な地図が得られなかったため、省略

Kang Yatse II



Nun (Camp1 5200mより)



天候の状況

天候は概ね良好だが、午後から雲が湧くことが多い。

昼間は晴ればGW程度の服装で大丈夫だが、夜間および氷河上は厳冬の防寒対策が必要である。

雪崩情報（被害が無いものについても発生状況を記入してください。）

Nunは午後などに上の写真の中央のフェイスから大規模な雪崩が時々みられる。

テイクイン、テイクアウトを報告してください。

高山病予防薬として医薬品を使用しましたか？

した（下記に内容を記入）

☒ しない

入山時の特記事項（ローカルポーター、使役動物の雇用状況、道路状況など）

Markha Valleyはドンキーや馬などが利用可。我々は手配がうまくいかず、「きつとうまくいく」的な地元の3人の大学生をポーターに雇う。

Nunは麓のTangol村からBCまで優秀なポーター達が荷物をスムーズに運んでくれる。

連絡官、高所ポーターなど現地スタッフの情報

Nunは午後などに上の写真の中央のフェイスから大規模な雪崩が時々みられた。

同じ山、山域に入山していた他隊の情報についてお知らせ下さい。（登山隊名、人数、隊長名、連絡先、ルート名
登山結果など分かる範囲で結構です。）

Nunで前に入っていたインド隊は、隊長が頂上直下で落石を受け、ヘリで搬送された。

その他の情報（登山だけではなく、地域情報などありましたらおしらせください。）

現地エージェント：

名称： SHIKHAR TRAVELS India Pvt.Ltd.

住所 連絡先：O-47, Lower Ground Floor, Lajpat Nagar 2, New Delhi-110024 INDIA

TEL -9810024551

mobile

e-mail

vikas.chauhan@shikhar.com

評判：

*ご協力ありがとうございました。